

■ 開設年度		■ 開講部局	
2014		共通教育	
■ 科目名			
日本の経営思想			
■ 英語科目名			
Management thought of Japan			
■ 前後期	■ 開講区分	■ 科目形態	■ 単位数
前期	毎週	講義	2
■ (2 5 年度以降入学生) 中分類		■ (2 5 年度以降入学生) 小分類	
b. 知力：人文・社会科学		11. 経済・経営を学ぶ	
■ (2 4 年度以前入学生) 大区分		■ (2 4 年度以前入学生) 中区分	
教養科目		分野1	
■ 受講学部学科			
全			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
吉田健一		稲盛アカデミー	
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)	
099-285-3753		k5621643@kadai.jp	
■ オフィスアワー (授業時間外の対応)			
毎週水曜日午後 事前に連絡を頂ければ、正規のオフィスアワー以外の時間であっても対応致します。			
■ 共同担当教員			
■ メインキーワード		■ サブキーワード	
■ 授業概要 (目的・内容・方法)			
本講義では、日本の経営思想の特徴を理解することを目的にし、石田梅岩の石門心学に遡り、近世、近現代の代表的な経営者の思想を取り上げる。取り上げる人物は鈴木正三、石田梅岩、渋沢栄一、松下幸之助、稲盛和夫などである。石田梅岩は『都鄙問答』、渋沢栄一は『論語と算盤』、松下幸之助は、『人間を考える』、『経営心得帳』他の書物、稲盛和夫については『経営12カ条』や『生き方』、『働き方』を中心に講義する。 本学の卒業生、稲盛和夫氏についても、近現代の代表的な日本の経営思想家との位置付けで最後に触れる。それぞれ人物の生きた時代背景やその人物の生き方にも触れ、その生き方 (思想) がどのようにその経営思想に影響を与えたかを講義する。その際、それらの思想の背景にある、(日本に特有の) 仏教、儒学、神道との関係にふれ、その労働観、利益観、資本観といった部分にも焦点を当てる。			
■ 学習目標			
1. 日本の近現代の経営者と経営思想について学び、資本主義の本質をどう捉えるか考え、今後の日本のあるべき資本主義の方向性、経営のあり方を自身で考える。			
2. わが国の近世以降の経営に対する思想、考え方、資本主義の捉え方には独特なものがあり、それらの思想の背景にあるものを理解し、それらの思想に基づく、その組織論・人間論・資本主義論の特徴と利点を理解する。			
■ 授業計画 (1 5 回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
1. はじめに—日本的経営と日本の経営思想—			
2. 石田梅岩1—石門心学にみる商人道徳—			
3. 石田梅岩2—石門心学にみる商人道徳—			
4. 石田梅岩3—石門心学にみる商人道徳—			
5. 渋沢栄一1—近代日本資本主義と「道徳経済合一説」—			
6. 渋沢栄一2—近代日本資本主義と「道徳経済合一説」—			
7. 渋沢栄一3—近代日本資本主義と「道徳経済合一説」—			
8. 松下幸之助1—松下の人間観と経営—			
9. 松下幸之助2—松下の人間観と経営—			
10. 松下幸之助3—松下の人間観と経営—			
11. 稲盛和夫1—その人間観と経営—			
12. 稲盛和夫2—その人間観と経営—			
13. 稲盛和夫3—その人間観と経営—			
14. 稲盛和夫4—その人間観と経営—			

15. まとめ—資本主義の今後を考える—

■ 授業外学習(予習・復習)

■ 受講要件	■ 成績の評価基準
日本の近現代の経営者、経営者の人間観や社会観、資本主義観に関心を持っている事が望ましい。	(1) 毎回のフィードバックシート(50%) (2) 期末レポート(50%)を総合的に評価。 暗記による知識の定着を問うものは実施せず、感じたこと、考えた事をどれだけ自身の言葉で表現できるかをフィードバックシート、レポートで問う。オリジナリティを評価の対象とする。但し、レポート執筆に当たって最低限の知識は必要となる為、講義には3分の2以上出ることをレポート提出の条件とする。
■ 教科書	■ 参考書
『日本の経営思想』(吉田健一・鹿児島学術文化出版・2011年)	『都鄙問答』石田梅岩・岩波文庫、『論語と算盤』渋沢栄一・国書刊行会・昭和60年、『公益の追求者・渋沢栄一』渋沢研究会編・山川出版社・1999年、『商売心得帖』松下幸之助・PHP文庫・2001年、『経営心得帖』松下幸之助・PHP文庫・2001年、『経営のコツここなりと気づいた価値は百万両』松下幸之助・PHP文庫・2001年、『実践経営哲学』松下幸之助・PHP文庫・2001年、『稲盛和夫の哲学—人は何のために生きるのか—』稲盛和夫・PHP研究所・2001年、『生き方』・稲盛和夫・サンマーク出版・2004年、『ガキの自叙伝』稲盛和夫・日本経済新聞社、『君の思いは必ず実現する』稲盛和夫・財界研究所・2004年、『稲盛和夫の実学』稲盛和夫・日本経済新聞社 他多数。講義の都度紹介予定。

■ その他